



- メリッサ・パークICAN事務局長 長崎を初訪問
- 令和6年度 長崎平和推進協会の事業計画・予算
- 追悼平和祈念館開館20周年記念事業「映像が語る原爆の記憶」
- 追悼平和祈念館開館20周年記念事業「朗読と音楽の調べ」
- 若者による平和ネットワーク構築プログラム
- 海外原爆展(ジョージア)
- ウインター・リング・ア・ベル・コンサート ～愛と平和を長崎から～
- 国際交流のつどい
- 青少年ピースボランティア福島研修報告
- 市民対象碑めぐり
- 秋月グラント・国際青年平和交流事業 参加者募集
- 会員の広場
- TOPICS!(Peaceなねこ新商品 缶バッジ発売 ほか)



協会webサイト



核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)事務局長メリッサ・パーク氏との意見交換(詳細は2ページ)

令和6年度 長崎平和推進協会の事業計画・予算

①平和推進事業費 68,791,000円 (下記1～5の事業費+人件費・事務費 45,494,000円)

1 広報事業費 1,626,000円

会報等の発行:会報「へいわ」、情報BOX、平和のあゆみ等を発行し、平和に関する情報を発信する。引き続き、紙媒体からメール配信への移行に取り組む。

ウェブ等の活用:協会ウェブサイトや、LINE・Instagram・YouTube等での情報発信、広告媒体での周知活動等に取り組む。

2 啓発事業費 2,619,000円

平和学習:修学旅行生等への被爆体験講話の実施、令和2年度より制作する被爆証言映像を含めた平和学習用DVD・写真パネルの貸出の他、外国語ボランティアガイドの派遣や研修などを行う。

講演会:平和への認識を深める講演会の他、芸術・音楽・スポーツなど平和の文化と連携した事業に取り組む。

国連軍縮週間行事「市民のつどい」:10月24日～30日の国連軍縮週間に合わせ、「市民のつどい」を開催する。

3 継承事業費 (長崎市からの委託事業) 11,898,000円

県外原爆・平和展:長崎県外での写真パネルや被災資料の展示、被爆体験講話の実施やビデオ上映を通して、核兵器廃絶と平和に対する意識高揚を図る。

語り継ぐ被爆体験(家族・交流証言):被爆者の被爆体験を語り継ぐ「家族・交流証言者」を育成・支援し、次世代の語り部への継承を推進する。

青少年ピースボランティア育成:青少年が原爆や戦争について学び、様々な視点から平和について考え、行動する場を提供することで、被爆体験の継承等に取り組む。

青少年ピースフォーラム:8月8・9日に全国の自治体が派遣する青少年と長崎の青少年が被爆の実相や平和について学習し、交流を深めることで、平和意識の高揚を図る。

平和学習発表会及び教材等配布:長崎市内の中学生が日頃取り組む平和学習の成果等を発表する「平和学習発表会」開催の他、副読本「平和ナガサキ」を作成し、市内小中学校へ配布する。

4 調査研究費 100,000円

平和・軍縮関係の会議等に役員・職員等を派遣し、情報収集とともに、関係機関との連携・意見交換を図る。

5 育成事業費 7,054,000円

部会活動:会員が市民とともに平和意識の啓発・高揚を図るために、4部会(継承・国際交流・写真資料調査・音楽)の活動を支援する。次世代育成と活動の活性化を検討する。

平和案内人派遣:原爆資料館・追悼平和祈念館・被爆建造物等を案内するボランティアガイド「平和案内人」の活動を支援する。

国際青年平和交流事業:長崎の若者から平和に関する自由な企画を募集し、認定した企画を支援する。

平和事業への支援:協会の趣旨と合致する音楽祭や講演会などの事業・活動を共催・後援することで、平和事業の推進を支援する。

秋月グラント:被爆の継承や平和意識高揚のための事業を実施する個人や団体への助成を行い、事業・活動を支援する。

②国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業 262,940,000円

国(厚生労働省)から「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」の管理・事業運営を受託し、被爆の実相・核兵器の脅威などを国内外へ広く伝える。

被爆関連資料・情報の収集・提供、被爆体験記の朗読、国内外の若者の交流促進などに積極的に取り組む。

③収益事業 10,804,000円

原爆や平和に関する書籍やグッズを作成し、ウェブサイトや原爆資料館売店などで販売する。利益の50%は平和推進事業の財源にも充当させる。

④法人会計 4,848,000円

公益法人を適正に運営するために、定期的に理事会、評議員会等を開催する。インボイス制度などの国の制度に対応し、業務の効率化を図る。



メリッサ・パーク ICAN事務局長 長崎を初訪問



1月22日に核兵器禁止条約が発効3年を迎える節目に合わせ、昨年9月、新しく事務局長に就任した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のメリッサ・パーク氏が、1月21日に長崎を初訪問しました。

パーク氏は原爆落下中心地にて献花し原爆犠牲者に祈りを捧げ、平和公園では平和への思いを込めて「長崎の鐘」を鳴らしました。

その後、「核兵器のない世界へ私たちにできること」核兵器禁止条約発効3年を迎えて」と題し講演会を開催しました。原爆資料館ホールには200人を超える人々が集まり、パーク氏の言葉に熱心に聴き入りました。

講演の中で、「核抑止論は完全なものではなく、事故やテロ、人工知能(AI)の進展などにより誤って使用される可能性がある」と問題点をあげました。また「今日までに、世界の国々のおよそ半数が、署名国あるいは締約国として核兵器禁止条約に加わり、最悪の大量破壊兵器である核兵器に反対する多国間の標準に従うようになっていく」と話し、「日本が核兵器禁止条約にまだ加わっていないことは残念に思う」。



被爆者がその苦しみや核の脅威について繰り返し警告してきた思いを考えると、日本は世界に率先して条約に加わったとしても不思議ではない。日本は「核の傘」という誤った考え方を捨て去って、条約に加わるべき」と訴えました。

午後には、高校生平和大使や青少年ピースボランティアなどの若者、被爆者との意見交換を行い、「核の問題を軍縮や安全保障の分野にとどめてはいけない。気候変動や人権、都市開発など人間生活全てに関わっている」と話しました。



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で様々なイベントが開催されました!

若者による平和ネットワーク構築プログラム

2月14日から16日まで「Youth Conference in Nagasaki」を開催し、この会議への参加をメインとした「若者による平和ネットワーク構築プログラム」を実施しました。

今回で14回目となる当プログラムには、マレーシア、韓国、ハワイから招聘した学生とともに県内の大学生や留学生など5か国、23人の若者が集いました。

初日には原爆資料館を見学したり、当協会継承部会の三瀬清一朗氏の被爆体験を聞くなど被爆の実相を学びました。

2日目からは、RECNAの中村桂子准教授をファシリテーターとして「なぜ核兵器はなくならないのか」、「核兵器廃絶のためになにができるのか」などについてグループディスカッションを行い、他者の意見や状況などを知ることにより、互いの認識や情報を共有し、継続的かつ現実的な取り組みについて考えました。

このような議論を経て、一人一人に核兵器のない平和な世界を構築するための短期的な目標、長期的な目標を発表してもらいました。彼らが今後平和ネットワークを広げていく上で大変有意義な機会になったのではないかと考えています。



追悼平和祈念館開館20周年記念「映像が語る原爆の記憶」

追悼平和祈念館では、1月20日から27日まで、交流ラウンジにて映像展「映像が語る原爆の記憶」を開催しました。

今回はNBC長崎放送所蔵の原爆をテーマとした至宝映像6作品(『第十一医療隊』『もう碑は建たない』『爆死者を追う』『われなお生きてあり』『原爆と車椅子』『核時代と人間』)を上映しました。初日のトークイベントでは、NBC長崎放送OBの船山忠弘氏、堀田武弘氏を迎え、高比良館長とともに、当時の取材にまつわる裏話や、これからのメディアに期待すること、現場で報道に携わっている後輩たちに伝えたいことなどをお話しいただきました。

船山氏は「被爆地長崎に爪痕を残す」を合言葉に取材してきた。日常の出来事を報道するだけでなく、長崎被爆の意味を取材し続けることが大切」と言われ、堀田氏は「原爆をつくった人たちも、落とされた人たちもいなくなりつつある。被爆の実相を最後まで語り、その取材を続けてほしい」と結びました。

上映期間中は約600人の来館者が視聴し、多くの方が関心を寄せた映像展となりました。



海外原爆展 (ジョージア)

12月15日から令和6年2月1日までジョージア(旧グルジア)の首都トビリシにあるイリア国立大学で、「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」を開催し、約4千人が来場しました。

会場には被爆の実相を伝える写真パネル、被爆体験記、被爆証言映像などを展示しました。

12月15日の開会式では、出席者を対象に継承部会員の三瀬清一朗氏がオンラインで自身の被爆体験を語りました。聴講者から「被爆体験を継承するための取り組み」や「被爆体験のトラウマをどのように乗り越えてきたか」などの質問ができました。

12月22日には、折り紙ワークショップを実施しました。参加者の皆さんが、折り方の説明文を参考にしながら、熱心に鶴を折っていました。この後、2月4日から18日までジョージア国内のバトゥミ国立大学で実施し、2月27日から5月2日までの予定で、シグナギ国立博物館において開催しています。



展示会場(イリア国立大学)

折り紙ワークショップ(イリア国立大学)

講話の様子(オンライン)

追悼平和祈念館開館20周年記念「朗読と音楽の調べ」

追悼平和祈念館では開館20周年を記念し、長崎県音楽連盟のご協力のもと、「朗読と音楽の調べ」を全3回の日程で開催しました。

第2回(2月3日)のテーマは、「黒本を知っていますか?」埋もれた体験記を読む」と題し、追悼平和祈念館に所蔵され、ここでも読むことのできない被爆体験記集「黒本」の中から、「被爆体験を語り継ぐ「永遠の会」が朗読し、尺八、ギター、ピアノとのコラボレーションでお聞きいただきました。

最終回(3月2日)は『明日へと続く平和を願って』『遠い遠い夏の日』から」と題し、原爆症の治療のため旧ソ連に渡り、染織作家として活躍した明坂尚子氏が、祈りを込めて染めた糸に添えて、友人たちへ送った文章を朗読し、フルート、ヴァイオリン、ピアノの情景を思い起こさせる演奏が花を添えました。



秋月 Grant・国際青年平和交流事業 参加者募集

当協会は「核兵器廃絶と世界恒久平和」の実現を目指して活動する個人・団体の活動を支援しています。年齢制限のない「秋月 Grant」、若者を対象とする「国際青年平和交流事業」の企画募集を開始します。この機会に、やってみたいことに挑戦しませんか？平和に関する企画を、ぜひ、ご応募ください。

●応募詳細は、当協会ウェブサイト「お知らせ」コーナーで紹介しています。

秋月 Grant



募集期間 4月1日～5月31日 **助成金額** 上限20万円(全体事業費の4分の3の範囲内)

申請方法 協会ウェブサイトにある申請用紙をメールまたは郵送

助成対象 次のいずれかに該当する方

- ①国内外で事業を実施する、長崎県内の個人または団体
- ②長崎県内で事業を実施する、長崎県外の個人または団体

助成対象事業 次のいずれかに該当する事業

- ①被爆・戦争体験を後世に伝えるための活動企画
- ②国内外において、国際的な平和交流を目的とした新規の活動企画
- ③調査研究・資料収集・教育などの幅広い平和啓発のための新たな活動企画
- ④その他、被爆体験の継承や平和意識高揚のための活動企画

国際青年平和交流事業



募集対象 長崎県内在住の15～29歳までの個人またはグループ(中学生を除く)
※高校生(または18歳未満)をメンバーに含む場合、責任者が必要です

企画(事業)テーマ

「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」

原爆・核兵器・環境・教育などの社会的・国際的な問題について、
①・②いずれかに該当するもの

- ①やってみたいと思う活動、または日頃から取り組んでいる内容を更に発展させた活動など、世界の若者等と長崎の若者の交流や相互理解が図られているもの
- ②原爆や平和、国際交流について学ぶ、または考える機会を取り入れているもの

募集期間 5月1日～6月30日 **補助金額** 個人:上限10万円 グループ:上限20万円
※市・県・他団体などから他の支援金等の助成を受けていないことを条件とします

応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入、メール送信

NO.28

お便りをお寄せください!

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

市丸 浩

Peace Wing Nagasaki 会員の広場

平和推進協会の会員として5年ぶりに平和案内人育成講座が開催され、受講しました。
平和案内人になることで、少しでも修学旅行に来る子供達や一般のお客様に平和の大切さや平和を作り上げるために何が必要かを伝えられたいと思います。
折しも1月にはNHKの「100分で名著」で「独裁体制から民主主義へ」非暴力という武器が放映されていました。その中にこのような言葉がありました。「自由は自らの手でどう勝ち取るかを学ばねば手に入らないだろう」……「自由」を「平和」に置き換えてみてはいかがですか？
長崎には「平和」や「歴史」を学ぶうえで材料がたくさんあります。根拠ある資料などからいろいろなことを学んで、平和な世界に近づけるよう行動しようと思います。

国際交流のつどい



2月10日の国際交流のつどいでは、長崎外国語大学で日本語を学ぶ留学生、李姿蝶氏、杜培誠氏、王怡暉氏に、出身地の特色、来日の理由、留学で学んだ事、日中関係などについてお話しいただきました。三人とも、初めは明確な目標はなかったものの、学ぶうちに自分が目指すものが明確になり、更に大学院を目指したいと思うようになったそうです。
来日して日本人が優しく親切で礼儀正しい事を知り、国は違っても互いに人は人で似たようなものと感じたそうで、日中関係について、「人は生まれ育った国で得る情報が異なるので相手の国を完全に知るの難しい。実際に行って、友好的な交流をすることで理解が深まる」などと語りました。

ウィンター・リング・ア・ベル・コンサート ～愛と平和を長崎から～



12月23日、原爆資料館ホールでコンサートを開催しました。長崎居留地キッズコーラスによる「あわてんぼのサンタクロース」から始まり、牛島和美氏が広島・長崎をテーマにした「リメンバー」を独唱、長崎居留地女声合唱団オルテンシアが「楓の秋」、長崎居留地男声合唱団が「蝶々桜」、そして混声合唱として長崎をテーマとした「詠唱」、「長崎居留地讃歌」などを披露し、最後に全員で平和をテーマとした合唱曲「祈りの光あふる空に」を合唱しました。
また「被爆体験を語り継ぐ、永遠の会」による「長崎の鐘」の朗読を通して平和の尊さを訴えました。

市民対象碑めぐり



3月3日、1年ぶりとなる継承部会・原爆遺跡研修班主催の「市民対象碑めぐり」を開催し、約60人の参加者が集まりました。
まずは山里地区ふれあいセンターで、写真資料調査部会松田斉部会長に今回巡るコースの被爆前後などの様子を、写真を用いながら説明していただきました。
その後、赤城墓地の聖職者墓地、浦上天主堂の崩れ落ちた鐘楼を見学し、山里小学校の防空壕前では、当時在校生だった継承部会員(被爆者)らが被爆の状況や学校生活について話しました。
約2時間の見学を終え、参加者からは「生々しい体験を聞けてよかった。」などの感想が寄せられました。

青少年ピースボランティア 福島研修報告



2月10～12日、青少年ピースボランティア福島研修を実施し、12人の高校生・大学生が宮城県・福島県を訪れました。仙台市の震災復興記念館では、戦前の歴史や仙台空襲、復興の過程を学んだほか、東日本大震災・原子力災害伝承館・請戸小学校、いわき震災伝承みらい館の見学、フィールドワークも行いました。震災の語り部や伝承館の若手職員との交流会では、負の歴史や遺産をどう継承していくのか、核(原子力)についてどのように考えているのか等について意見を交わしました。
参加者は研修を通して、継承する意義を再確認し、核問題や原子力災害をはじめ、様々な社会課題を多角的な視点で学ぶ必要性を感じたようです。

TOPICS! へいわトピックス

「被爆体験を語り継ぐ 永遠の会」9日を忘れない

被爆体験記朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ 永遠の会」は、8月9日を忘れないために、毎月9日の11時2分から原爆資料館いこいの広場にて被爆体験記を朗読しています。

1月9日は、「戦争がもたらしたもの」と題し、原爆資料館に展示されている2枚の写真「焼き場に立つ少年」と「おにぎりを持った親子」にまつわるお話、17歳で被爆した女性の体験記と詩、2月9日は、原爆の後遺症で透析治療に生涯苦しみながらも、生きようとした姉の過酷な闘病生活を支え、その死を見送った妹の手記、3月9日は、鎮西学院中学校で被爆した教頭先生、何気ない日常が一瞬のうちに奪われた男性、「原子雲の下に生きて」より先生と児童の体験記を、それぞれ朗読しました。



「Peaceなねこ」新商品缶バッジを発売しました!

「尾曲がり猫」のクルンと曲がった鍵しっぽは、幸せを運んでくると言われているそうです。この「幸運の猫」をモチーフとする、「Peaceなねこ」シリーズで缶バッジを新たに作成しました。

原爆資料館ミュージアムショップで販売する他、当協会ウェブサイトでもオンライン販売も行っています。ぜひご購入ください。

Peaceなねこ 缶バッジ 1個 110円(税込)(会員価格99円)



世界の核弾頭の数

	ロシア	米国	中国	フランス	英国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2023年6月1日	5,890	5,244	410	290	225	170	164	90	40	12,520

長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) 提供 <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

寄附者紹介

ありがとうございます

◎上西 和紀

(敬称略)
一万円

◎匿名

十萬四千元

皆様から寄せられた香典返しや退職祝いなどのご寄附は、平和推進事業の貴重な財源として、活用させていただきます。

会員数報告

◎維持会員

1,063名

◎賛助会員

176名

◎学生会員

44名

令和6年3月1日現在
賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。

ご支援ご協力誠にありがとうございます。会員拡大にもご協力をお願いいたします。

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていただいていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局またはコンビニエンスストアで納入くださいますようお願いいたします。

お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。どうか、事務局までご連絡ください。